

明倫彙編家範典

下

^ 13

2909

3

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

13
2909
3

昭和九年
二月二十日
購求

教訓郭里の東雲卷之下

江戸 楚満人改

為永春水筆刪
松亭金水稿本

實櫻の段

まのふよりけ六教そ入洞ふと古に河も以ある。
くて浦里ハ便りとそ人。深菰も時二郎がこころ
とわつて。今の吾ハさそあきろ。時二郎がこころ
つと。まのふよりけ末の約束までしる。

又。やうの正六兎も角も。教令してかへまふ。
いふが一点やふ。あつたえんも是きうと。腹立
まじふと不帰りい。苗てもいふまじふと。今ハ
何とも論方う。いふとせんところおひつ。うる可
かりある。廊下をくそとせんまう。こま
アある。もやハマどうしと。いんど。毎をくわ
見ると。鳴りやう這入て。寐て仕まつて。サ
あまふあふがわ。トへいさうく。ころるんごまの

がまやア。てんぐふよくまや。きんておておわ
う。あうア。今に客あるの来さう。あうま
こそしてあうま。あうまふいさく。あま
て。あうこのいさく。いさく。浦里のさうと。あ
一毛と浦さうま。あうま。あうま。あうま。あ
あうま。あうま。あうま。あうま。あうま。あ
あうま。あうま。あうま。あうま。あうま。あ
あうま。あうま。あうま。あうま。あうま。あ
あうま。あうま。あうま。あうま。あうま。あ

あけさる。その上にはけろ。安んず内ふも居る。
つちをわく。いふとて。今さら捨てあまら
ま。ア本意でもわく。いふ。あつるおの。夫と
そ。ち。ち。ち。お互の。おの。は。り。ぶ。ら。う。と
あ。い。ま。た。る。が。い。ふ。の。お。ま。え。さん。が。そ。う。さ。る。ゆ。が
さ。る。か。わ。ど。時。え。も。ア。い。ま。で。も。内。ふ。も。ぬ。ら。ど
ぶ。ら。は。い。と。居。さ。る。や。ら。う。と。い。ふ。の。お。ま。え。さん。と
言。て。も。人。に。浮。ろ。と。ま。ら。ま。る。と。失。に。い。ち。や。ア。今

す。で。来。さ。し。つ。と。客。人。も。ど。ろ。く。足。が。お。ろ。く。な。る。と
い。ふ。ま。る。の。い。で。為。さ。る。も。る。い。で。そ。う。ま。の。や。ア。い
ち。る。い。で。い。て。も。は。ま。わ。る。も。わ。く。と。い。ふ。ま。る。
の。あ。い。何。も。同。ち。げ。も。あ。り。ア。お。ま。え。さん。の
と。り。其。上。も。ど。ろ。に。静。や。と。居。さ。る。か。る。ど
ろ。且。お。ま。え。も。い。び。く。あ。い。も。あ。い。は。い。と。い。ふ。ど
ろ。く。い。ふ。も。と。い。ふ。ま。る。と。い。ふ。ア。よく。ア。ま。る。と
考。げ。て。ぶ。ら。え。る。ま。る。は。う。が。異。な。る。と。い。ふ。浦。アイ

強イもの。ことうがりのハけんハ讀よて行燈あんどんを
ておいくくえする。そして方々臺たいの下した廊下らうかに
あちちうろて居ゐる。おれ世活せきとして片付くづさ
てくる。マけ頃ころハるねと人ひとが二人まで居ゐる。えん
どう。かうして居ても世活せきがかけてる。サマ
お体みをよあまをせう。と替かえらななく片付くづる浦里
も挨拶あいさつして。元のさうな人ひとまでくても。あひうと
粗あら詰づめどうする夏なつと女おんなの。秋あきの夜よ長ながも情なさけ々と

あじかねる物もののうら。恋こひハ女子おんなの猪いののね。
座ざとおほも人目ひとめの冥めい夢むの浮世うきよとあまを
も。明あきらめきた係かゑハ。どうして魔生まうの神かみさん。
結むすべおらま。縁ゆかりサ。かせるねど注しよ方かた。
昨日きのうとあう。今日けふとく。時雨しよめ月つきもるのけ
ま。あひおほ。時とき常じよう今浪々いまななの身みとるしと
さあ。熱あつくかうく。叔母おしその方かたく。覚さし。下したの
あま。そのわも。あうま。形かたちを付くふ。今いまハ海うみとく

時二部も其^{その}如^{ごと}き等^らううはき。花^{はな}とぎう^うる^るといひ
ぶらと夫^そより格^{かく}多^たく^くあて^てる^るが浦里^{うら}ハコ^こを
と^と中^{ちゆう}堅^{けん}と^とあ^あり^り口^{くち}く^くふ^ふ時^{とき}さん^{さん}く^くあ^あき^き葉^え
えへ往^いら^らう。ア^ア口^{くち}ち^ちま^まや^やア^アあ^あの^のき^きと^と一^{いち}本^{ぼん}あ^あく^く
来^きく^くお^おえ^える^る一^{いち}な^なア^ア子^こ口^{くち}ち^ちま^まや^やア^ア堅^{けん}と^と一^{いち}冊^{さく}
き^きと^とと^とア^ア時^{とき}一^{いち}や^やる^るん^んでも^{でも}覚^{おぼ}て^てあ^ある^るう^う九^くイ^いの^のめ^めと
よ^よあ^あ一^{いち}な^なア^アる^るえ^えぎ^ぎん^んと^と入^いげ^げう^うら^ら一^{いち}な^なア^アわ^わら
ら^ら一^{いち}な^なア^アと^とや^やら^らね^ねぶ^ぶア^ア何^{なん}も^もよ^よと^とわ^わね^ねト

ころ口^{くち}と^とあ^ある^るう^う二^に階^{かい}へ^へあ^ある^るな^なへ^へ時^{とき}さん^{さん}へ^へよ^よく
お^おい^いで^でる^るま^まい^いま^まい^い。ま^まち^ちと^とお^おえ^ええ^えに^にお^おあ^あい^い
ヤ^ヤス^スエ^エが^があ^あう^うら^らけ^け。ま^まち^ちよ^よと^と廿^にイ^いヤ^ヤあ^ある^るや^やえ^え
け^け間^ま中^{ちゆう}う^う。あ^あえ^えふ^ふも^もち^ちと^と辛^{しん}抱^{ぱう}う^うと^とい^いえ^える^る
う^うら^ら内^{ない}み^み居^いか^かう^うと^とあ^あつ^つて^ても^も。あ^あう^うも^もそ^そう^うも^もい^いつ^つわ^わへ^へ
あ^あう^う一^{いち}モ^もウ^ウ今^{いま}夜^よま^まう^うで^でま^まと^と漸^{しん}く^くあ^ある^るま^まの^のり^りよ^よ
ま^まは^はか^かう^うと^とあ^あえ^えま^まり^り毎^{まい}を^をえ^えい^いら^らう^うて^ても^も。あ^あう^うも^も
内^{ない}証^{しやう}の^のま^まも^も入^いる^るも^もあ^あい^い。ま^まと^とま^まう^うる^るえ^えて^ても^も月^{つき}み^みこ

うらうら

十

あり。いまも今までうろくとしてまはれて来た
の。此方のあやまりど。多く今夜がその二階の
足もとまで。いまも久しく来ておどろく心づひを
そまに茶をしかれ。是といふら。本このがモウ
けろくといつて居ます。ア。そま。兎も角もど
れど外に是といふ客あひる。う。深さ。う。後
ま。ま。ア。裁に。こ。う。も。ま。ま。う。が。ま。う。も。色。く。ふ
言ても。ま。れ。へ。う。ら。仕。う。が。わ。ん。夫。に。付。て。も。る。

ちろと辛抱して。今に暮もろく。少ハおどろ
あてふも。う。て。お。え。る。え。う。時。へ。そ。う。ア。困。て
め。で。ま。う。う。お。ま。も。お。つ。て。の。あ。う。う。え。く。お。果
し。と。ま。の。う。へ。る。う。今。う。ら。う。へ。の。あ。う。ふ。辛。抱
して。も。う。く。相。ど。え。所。ど。や。ア。わ。ん。ま。く。早。く。往。て
ま。う。ま。い。げ。ん。の。あ。う。に。あ。ま。あ。ま。あ。や。ア。あ。ど
ま。い。う。う。ま。浦。へ。今。ま。で。色。く。言。し。も。ま。ま。ま。ま。え。ん
う。ま。う。け。ろ。う。う。け。ろ。う。が。う。う。ま。う。も。ま。ま。ま。ま。い。が



いさうひとやとらう。夫についで茶碗に青^{あせ}きり。
 まと跡^{あと}のかん病^{びやう}ハごらんごらん 浦^{うら}アイサ^ああ中の
 恋^{こひ}いさうひととね。そうあつておらんえい。いさう
 酔^よてもねにかん病^{びやう}ハあめそヤイせん。あんまり
 人の心^{こころ}も知^しりぬかずに。よく人をいぢめるよ。あつち
 時^{とき}いそいで入^いる。あつちからうまぜ。初^{はつ}け入^いる裡^{うち}のま
 じやああるへー 浦^{うら}アヤなううん 初^{はつ}う裏^{うら}の客^{きやく}を
 るけのやア。つちらぬらんであらん 思^{おも}ふまご初^{はつ}めさ

つ。サアくおさまて見^みえ。酒^{さけ}もうこけてあまのい
 甘^{あま}うト能^{あた}ふその外^{ほか}うこさまへよう 時^{とき}おねも大^{おほ}に
 酔^よこも。そえるる寐^ねやう 浦^{うら}アおろぐいのさ起^{おき}て
 居^ゐるまご例^{れい}のくさむげういふより。寐^ねてなるに
 むうがえんううてまらう。う浦^{うら}風^{ふう}さん 思^{おも}ふサア
 早くお歌^{うた}をえート居^ゐるうそまへー出^でてあ 浦^{うら}
 時^{とき}さんモ 移^{うつ}るのう 時^{とき}イマ 浦^{うら}「不^ふ目^めで目^めを眠^ねつ
 居^ゐるーやアわん 時^{とき}「不^ふ移^{うつ}るのう。おねもま

と。知^しりや。此^この月^{つき}と果^はしてあまうも。あまの其^{その}でも
る^もんでもね。あ^あらう。是^こが親^{おきな}同胞^{どうぼう}へ苦^く勞^{らう}をうけこ
罰^{なぐさ}でござうヨ。是^こバ死^しに此^この世^よに。あき^{あき}らやうと
ね^めあ^あわ^わね。人^{ひと}が死^しなう。なう。一^いん。の海^{うみ}のわ^わらうと
あ^あら^らねど。ど^どう。一^いん。あ^あわ^わが身^みで。已^やむさうを
こ^こら^らわ^わ人^{ひと}勿^な論^{ろん}。そ^そう。い^いん。と^とる^るバ。ち^ちぐ^ぐわ^わう^うら^ら其^{その}
ち^ちふ。つ^つに^に合^あて^てく^くま^まば^ばい^いが。い^いん。深^{ふか}切^きあ^あて^ては^は
の^の。あ^あら^らなり。今^{いま}で^でハ毒^{どく}と^とる^るて。マ^マく^くあ^あの^のつ^つま^まり^りハ

み^みね^ねより外^あに思^{おも}え^えハわ^わのさ^さ。浦^{うら}へま^まこ^こえ^える^ると
と^とい^いひ^ひで^でして。モ^モウ^ウく塞^{ふさ}で^であ^あえ^える^るさ^さ。こ^こら^らあ^あら^らが
ち^ちう^うめ^めと。そ^そこ^こら^らで^でま^まで^で深^{ふか}切^きに。あ^あら^らて^てく^くえ^える^るさ^さ
ね^ねの心^{こころ}。あ^あら^らぐ^ぐい^いん。ら^らのト^と洞^{どう}ふ^ふの^の声^{こゑ}と
僕^{わが}ふ。こ^こら^ら紙^{かみ}と^とて鼻^{はな}う^うち^ちか^かき。洞^{どう}と^とあ^あら^らで^で「あ^あら^らぞ
自^じ由^{ゆう}に^にる^るて^てあ^あら^ら。た^たえ^えを^を含^こめ^めて^てさ^さる^るさ^さと^とも^もね^ねの
ち^ちう^うめ^め深^{ふか}切^きる^る。良^よ人^{ひと}と^とお^おて^てく^くら^らく^くさ^さう^うと^とあ^あら^らな^なま^ま
さ^さも^も先^{さき}頃^{ころ}より。ど^どう^うく^くあ^あら^らく^くは^はり^りあり。そ^そう^う言^いて^てら

憎^やいありと。ま^ままづ^め老^ろて^ろ必^{かならず}ひる^{ひる}え^えせう^{せう}ぐと。
 ふ^ふの^のぐん^{ぐん}くに^{くに}に^にわ^わの^の心^{こころ}と^と推^{おし}量^{りょう}し^して^ては^は常^{じょう}宿^{しやく}
 と^として^{して}居^ゐる^るま^まに^にヨ^ヨ財^財主^主か^かく^くど^どとして^{して}居^ゐる^ると^とハ^ハ浦^{うら}へ^へ日^ひち
 ま^まが^がや^やる^るの^のと^とあ^あつ^つて^て。そ^その^のつ^つまり^{まり}ハ^ハ死^しする^ると^とま^まで^で。
 必^{かならず}ひ^ひる^るえ^えと^との^の。そ^そる^る斯^{かく}と^とい^いふ^ふね^ね々^々死^しに^に迎^{むか}ひ^ひ
 生^いて^て居^ゐる^るま^まに^にえ^えせん^{せん}。年^{ねん}が^があ^あけ^けたら^らさ^さな^なく^くあ^あき^き。一^{いっ}つ^つの^の
 義^ぎ理^りを^をま^まと^とう^うに^にあ^あく^くい^いふ^ふに^にど^どう^うと^とい^いふ^ふて^てね^ねの^の
 る^る人^{ひと}ある^る。あ^あの^のハ^ハあ^あく^くと^とい^いふ^ふに^に考^{かん}て^てを^をこ^ころ^ろね^ねど^ど。

係さんだらでも、こもるに、あ、こやア。まゝぐ、苦勞くろうが、不苦
 勞くろうで、うされ。そ、うら中へ人も、まて、爺おやに、へ、こ、あ、せ。
 世よへ、ま、まて、居ゐる、か、と。今いまで、ハ、ま、め、不辛抱ふしんぱう
 して、月つきに、よ、や、二、三、度、ぐら、お、来きて、六、日、ち、ま、の
 年としの、あ、り、と。指さで、折おて、待まちて、あ、り、と、い、ま、さ、う。人、不
 ま、い、バ、今、あ、り、て。実じつに、女房にようばうも、持もた、わ、る、で、居ゐる、と、い、
 ち、や、ア。見みえ、不ふ女房にようばう、客きやく人にんと。い、ま、ま、が、あ、り、め、と
 して、ま、え、息いきして、外そとへ、い、つ、て、ハ、あ、ま、り、義理ぎりが

コタラうおに。夫に久しくあつたえづろ。二階ハミ
心易し。とて人かくしておまへんの。変いろうとて
とて。所詮そうハいたしたる。そつて見ればコタラ
グ死んで。おのにおいもあつた。先の物もある。い
や。そつて其まねが美理もろ。あちうをたてて
つらうがしね。九尺二間ハ戸が一枚とて。いふ
まが。お上さす。トホや。洞をくく。源江
時ハ。たろく。いふと。といふ女ど。も。又。が。死でつまる。おろ。

死んで。いふやア。おまへが。死なる。る。と。いふ。の。ハ。始
う。そ。う。いふ。人。の。あ。つ。た。いふ。ハ。あ。つ。た。ち。で。な。つ。た。
おまへと。今。さ。う。彼。は。いふ。ア。わ。り。と。親。國。抱。も
つ。ま。き。ら。れ。生。ぐ。ひ。の。わ。ん。お。ま。へ。が。身。ハ。ど。う。で。な。ま。あ。
る。わ。ん。か。と。お。ま。へ。が。死。ね。ば。外。に。死。ん。だ。心。ハ
わ。ん。と。も。ろ。く。年。が。明。さ。う。その。人。と。中。よ。く。い。ふ。て
百。年。ハ。千。年。も。た。の。あ。つ。て。未。来。と。わ。ん。本。と。は。な。い。
縁。が。あ。つ。た。逢。ふ。せ。う。か。う。い。ふ。度。あ。つ。た。う。と。

霞ふかくして持てあづこ。此のまぢやうか此世の
 縁さう。是までほくしと罪滅び。さても死ね
 るうも人の前で死ぬのぐせあての心ゆじと扱バ
 玉ちる氷の双浦里もまぢやう携りつき 浦へ入ふ
 やとあてこつまぢやうちげハさるあからねう喻
 覚え期ハ極さふしう。今夜ダ今夜死ぬわんでも
 まこと思案も 時ふや外にあえれわん身の人
 ぞうで一ふふるふやアるわんたる世くト鳥操

ても。命うまじうに浦里か。おさるく放さね女のカ
 浦へ入ふもそるふさうまぢやうるんまじやう わんね
 るううまぢやうまぢやうふくけて。殺しておいて死ぬるに。
 おまへげうりと先づさうまぢやうて生てあゝまぢやう
 ち三男ハこねるまぢやうで。氣づんぬのうトぞり居
 て。洞くまぢやうふめだる双一表のうまぢやうふめど
 はああねまぢやう。二階でもうらっしうまぢやう一疾
 将ゲマラうく。浦里まぢやうと目とさるく。牙とる

つて一時きんくおききんく時くびりきり
汗みろく浦へ今城に怖い夢とてきりてね。
月がさあさあ。えんどうさるえんまうら。そまて
お下やまこ時へおききんくあて号い
さわり大ゆせ浦へえんくおききんくさうい
まゐんさうさうさうわ時へさうであうハ
かうさう。さうさうさうさう夢へ浦へえん小共
らうにさうんまをトさういひさう抱きくさう

へ不寐をえ七の柏子木カキ

郭里の東雲巻之下 終

江戸作者 楚満人改 為 永春水

松 亭 金 水



改名と吉なれ藤景 狂訓亭藏

